

東京オリンピック

聖火リレー



5月29日(土)、7月23日(金)から開催される東京2020オリンピックの聖火リレーが町内を走行しました。

聖火リレーは今年の3月25日(木)に福島県を出発してから、全国を走っており、福井県は全国で31番目の聖火リレーとなっています。新型コロナウイルス感染症の影響で、公道での走行ができない県もある中、福井県は29日と30日の両日とも公道での走行ができました。この日の聖火リレーは、高浜町から出発し、南越前町には7番目に訪れました。町内を走ったのは10人のランナーで、先頭と最終のランナーは、南越前町から選出されたランナーが走行しました。直前まで天気が心配されましたが、当日は薄曇りの走りやすい天気で、町内を走ったランナーはみんな笑顔で聖火のトーチをつないでいきました。



フェンシングオリンピック日本代表



青木千佳選手激励会

5月30日(日)、東京2020オリンピックのフェンシング競技女子サーブルに出場する青木千佳選手(NEXUS所属)の激励会が南越前町役場で行われました。

今回の激励会は新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、人数を最小限まで減らすとともに、感染防止策を徹底して行われました。はじめに岩倉町長が「青木選手は南越前町の誇り。町を挙げて応援する」と挨拶し、激励金や町内中学生たちの応援寄せ書きが青木選手に送られました。



青木千佳選手の紹介

上別所出身。武生商業高校から日本大学に進みサーブル種目に専念する。全日本選手権で3回優勝し、2015年のアジア選手権銀メダル、2016年のワールドカップで3位に入る。2016年リオ五輪代表に選ばれ、東京五輪は2度目の出場となる。



〈第一走者〉

岩崎 良子さん(金粒)

緊張しましたが、沿道で皆さんが応援してくれたので、感謝の気持ちで走りました。町民の代表として走ることができ、とてもうれしいです。

看護師をしていてワクチン接種にも携わっている中で、聖火ランナーとして走ることに葛藤があり、インタビューや取材もお断りしたこともありましたが、家族や職場の皆さんの応援があったからこそ力になりました。今はワクチン接種の会場で頑張っています。

この聖火がコロナが収まる希望の炎になってくれればと思います。ありがとうございます。



〈最終走者〉

今村 彰彦さん(脇本)

聖火ランナーに選ばれることはなかなかないので、皆さんの声援を受けながら楽しんで走ろうという思いでした。皆さんが応援に駆けつけてくださって、緊張も和らぎ楽しく走ることができうれしかったです。応援していただき、ありがとうございます。



続いて、青木選手を応援するビデオメッセージが上映され、恩師や多くの友人たちのエールが流れると、青木選手は「みんなの期待に応えるよう頑張る」と闘志を燃やしました。青木選手は女子サーブルの個人戦と団体戦に出場し、個人戦は7月26日(月)の午前9時から、団体戦は7月31日(土)の午前10時から、ともに千葉県の幕張メッセで予選が行われます。

ビデオメッセージより



- 最高のパフォーマンスができるように心技体を極めていってください。
- 努力を続け世界の選手と戦っているのはすごいこと。今まで練習してきたことを信じて思いっきり戦いメダルを取ってきてください。
- リオ五輪でできなかったことを東京五輪で出し切れるようにがんばって。悔いなく笑顔で楽しんできて。

もっと知りたい

フェンシングはフランス語で「滑走路」を意味する「ピスト」と呼ばれるコート(幅 1.5 ~ 2 m × 長さ 14 m)で1対1で試合が行われます。予選は1試合3分間、5ポイント先取、決勝は1試合3分間×3セット、15ポイント先取で勝利となります。サーブルは上半身が攻撃の有効面であり、500 g以上の圧力がかかる「突き」と「斬り」で得点となります。ダイナミックな斬りの攻撃やスピーディな試合展開が見どころです。

もっと知りたい

聖火リレーは1936年、ベルリン大会で初めて行われました。聖火はオリンピックの発祥の地であるギリシャ・オリンピアで太陽光から採火され、ギリシャ国内でリレーが行われた後、開催国に引き継がれます。開催国へ運ばれた聖火は国内をリレーし、開会式で聖火台に点火されます。聖火を運ぶ「トーチ」は「たいまつ」を意味しており、聖火台に点火後には、平和の象徴であるハト(ハトをかたどった風船など)が放たれます。オリンピックのあるべき姿「平和、団結、友愛」の理想を発信する一大イベントとなっています。